

＜帯状疱疹＞

帯状疱疹は皮膚がピリピリとした痛みから始まり、赤い水ぶくれができ加齢やストレスで誰もがかかる可能性がある病気です。また、正しい治療法があまり知られていないことが多いので後遺症として痛みが長く残ることがあります。

痛みやかゆみといった前ぶれから始まり、4～5日後には同じ場所の皮膚に赤い発疹ができます。この間に痛みが強くなることが多く発疹はまもなく水ぶくれが帯状に現れ、重症の場合数日後に膿が溜まりその後ただれた状態へ移行します。数週間後にかさぶたが取れ治癒する事が多いです。しかし、通常皮膚が治ると痛みもなくなる事が多いのですが炎症が強く神経が傷ついた場合は痛みが慢性的に続きます。特徴として体の片側に出現します。

痛みが残りやすい人は60歳以上の高齢者に多く、急性期の症状が重症であること（湿疹がひどい・痛みが激しい）。さらに触れただけの刺激を痛みとして感じたり、大きく知覚異常がみられる人に多いです。

特に免疫力が低下している人は帯状疱疹になりやすく、治りにくいです。

帯状疱疹のウイルスは水疱瘡のウイルスと同じです。子供のころにかかった水疱瘡のウイルスが治った後も消えず、全身の神経に潜んで普段は活動していませんが、老化やストレスなどで免疫が低下すると再活動して帯状疱疹として発症します。

治療は抗ウイルス剤でウイルスを減らすことです。ウイルスが少ない早い段階で飲み始め、症状が治まってもきちんと飲みきることが大切なので、早い診断と治療が必要です。